

目次

I. 先輩からのメッセージ →	51 ページ
II. サイエンスメンター事業について① →	52 ページ
III. 「研究ことはじめ」 →	53~54 ページ

I. 先輩からのメッセージ

2016年度のメンティたちから、次年度の後輩に向けてメッセージを書いてもらいましたので、ご紹介します。今後はメンティOB・OGと、コミュニケーションが取れる機会を作っていく予定ですが、メンティの皆さんの活動時に、参考にしていただけたら嬉しいです。

- 1 積極的にメンターとやり取りすることで内容がもっと深まると思います。
- 2 しっかりと勉強・研究を楽しんでほしい。発表にとらわれて急いだりして失敗しない様に。
- 3 学校の座学では学べないようなことが学べました！
- 4 メンターの先生と一杯、連絡を取ってください。
- 5 1年間、手を抜かず成し遂げてください。地道な作業の積み重ねが生きてきます。
- 6 計画的に研究を進めていくことが大切だと思います。
- 7 自分の知識が正しいか積極的に聞くべきだと思うので質問をどんどんしてください。
- 8 1年間は意外と短いです。
- 9 できるだけメンターの先生に直接、会うことが大切であると思います。私の場合、高校が先生の研究大学の構内に位置していたため容易でしたが。
- 10 何かわからなかったり、迷ったりしたらすぐにメンターに相談した方がよいと思います。
- 11 最低限のマナーは守るべきということ。
- 12 せっかくメンターとして大学の先生などが自分の研究のサポートをしてくださるので、メンターの先生と相談してできる限りのことを行ってほしいと思います。
- 13 わからないことや行き詰ったらとりあえず、メールして相談してみた方がよいと思います。
- 14 素晴らしい制度だと思いますので是非、みなさんも有意義に研究をすすめて、素晴らしい経験を得られたらとても良いと思います。
- 15 気になったことは考え込まずにすぐ相談！
- 16 研究の計画を必ずたてる。



平成 28 年度研究発表会風景

Ⅱ. サイエンスメンター事業について①

続いては、先月9月より2017年度の17組のメンティたちの利用が開始されました。

サイエンスメンター事業は高橋事業委員長の発案のもと、2013年に試行で始まり、今年で5年目を迎えました。事務局では利用されるメンティにせっきくの機会を有効に活用してもらえるよう、毎日試行錯誤しながら、何か良い知恵はないかと考えています。そこで、今号より事業の知ってほしいことをシリーズでご紹介することにしました。

事業紹介の第一弾は、メーリングリスト（ML）についてです。

最近の高校生の方は、メールをすることに慣れていない方も多いことでしょう。それなのに、この事業ではメンターとのやり取りは、MLでお願いしています。

MLとは複数の人と電子メールでやり取りをする仕組みのことです。

いまだき何で？ と思われていることと思いますが、それには理由があります。

一つ目はメールすることは、将来に役にたつと考えているからです。大学入学後や就職した後、必ずやメールをしなくてはいけない機会があります。ならば早い段階でそのルールを知っておくことは、損にはならないはずで

二つ目の理由は、メールはいつでも自分の思った時に送信できることです。実際、電話などと違って、受信した相手も好きな時に読むことができるので、時間を気にしなくても大丈夫です。そう考えると結構、便利です。

もはやビジネスの場では、メールができることは必須です。LINEとは違うルールがありますが、それを覚えてしまえば、とても簡単です。

あるとき、メンティのOBの方にお話を聞いたら、最初はメールでメンターの先生へコミュニケーションを取ることは、ハードルが高かったそうですが、その後に大学に進学してメンター事業でメールをしていたことが大いに役に立ったそうです。

最後にメールの文章を考えることは、自身の考えをわかりやすく相手に伝える練習にもなります。それは論文作成等に役に立つでしょう。

以上の理由からサイエンスメンター事業では今のところ、メンターとメンティにはメールでコミュニケーションをお願いしています。



サイエンスメンター事業の仕組み

Ⅲ. 「研究ことはじめ」

次は首都大学東京 松山先生のコラムをお届けいたします。今号では松山先生がなぜ、現在、研究されている分野の研究者となったのか？ そのきっかけについて語っていただきました。私も担当者として将来、この事業のメンティのOB・OGから研究者が誕生することを期待しています。松山先生のお話しはとても興味深く、今後も色々な先生に研究するきっかけを訪ねてみたいと思いました。

松山 洋

今回は、筆者が「現在の専門に進もうと思ったきっかけ」や「小さかった頃に興味を持っていたこと」について語ります。

【現在の専門に進もうと思ったきっかけ】

筆者は高校生と大学生の頃、ワンダーフォーゲル部に所属していました。登山では翌日の天気を予想することが大事で、夏山では毎日16:00にNHKの気象通報を聞いて天気図を作成しました。冬山ではこれに加えて早朝に高層天気図を作成しました。天気の移り変わりを通じて気象学・気候学に興味を持ち、大学は地学科（地理学コース）で「アマゾンにおける降水量分布の特徴とそのメカニズム」という卒業論文を書きました。アマゾンについて研究することになったのは、宴会の際、当時の指導教官に「松山くん、アマゾンやらない？」と言われたことがきっかけです。

アマゾン川流域では、ここに広がる熱帯林からの蒸発散量が年降水量の半分を占めており、水循環という観点からも熱帯林が重要であることを知りました。この卒業研究の時の体験が、現在の専門「広い意味での水循環」につながっています。↗

♪【小さかった頃に興味を持っていたこと】

筆者は小さい頃から鉄道ファンで、現在、日本全国の鉄道の99.9%に乗っています（未乗なのは、2017年3月4日に延伸した可部線 可部～あき亀山間 1.6 km だけです。この区間は2003年に廃止になった路線が一部復活しており、廃止前に乗っているのです、そういう意味では乗車率100%とも言えます）。鉄道旅行が好きだったことも、地学科（地理学コース）に進んだきっかけであると言えます。ちなみに、小学生の頃からJTB時刻表の巻末にあるクイズコーナーに解答し続けること40年、現在でも時刻表のクイズは研究より好きです（研究を中断しても時刻表のクイズに取り組んでしまいます。笑）。

【松山先生のプロフィール】

首都大学東京 都市環境科学研究科 教授。日本科学協会商議員。2014～2016年度日本科学協会サイエンスメンター。専門は広い意味での水循環。皆さんの高校で使っているかもしれない、二宮書店の「地理A、B」の教科書を執筆しています。



今年の金木犀です。10月11日撮影
(コラムとは関係ありません。)

～事務局 加瀬より～

うちには大きな金木犀がありますが、今年は花が咲いてから急に寒くなったので散らずにずっと咲いたままでした。おそらく今までの中では最長記録なのではと思います。とうとうこの台風であつという間に散ってしまいました。

メンティ・先生・メンターのどなたでも、ニュースやニュースレターに関して、ご希望があれば遠慮なく事務局にご連絡下さい。また、こんな情報を載せたい・知りたいという要望も大歓迎です。

発行元：  公益財団法人
日本科学協会 企画室
サイエンスメンターニュース 第3巻 第8号 (通巻34号)

発行日：2017年10月23日

〒107-0052 東京都港区赤坂1-2-2 日本財団ビル5F TEL:03-6229-5360 FAX:03-6229-5369

URL: <http://www.jss.or.jp/ikusei/mentor/>

E-mail: kikaku@jss.or.jp